



「佐々木さんを支援する会」会報

# ウブムエ

事務局 〒235-0041横浜市磯子区栗木1-22-3 / TEL 045-774-9861洋光台  
バプテスト教会内(蛭川明男牧師) / 世話人代表 金子 敬  
事務局長 吉高 叶(栗ヶ沢バプテスト教会TEL 047-341-9459)

ニャルワンダ語で「ウブムエ」(ubumwe)とは、「一致」「調和」「和」を意味する。

## 巻頭言

寺園喜基

てらぞのよしき

学校法人・西南学院  
院長

### 主にある希望

今春のニューズウィーク誌で興味深い記事を読みました。

1974年にアフリカで400万年前の猿人の化石が発見されたとのこと。この猿人は身長91～151センチ、体重27～45キロで、歯は小さく、肉ではなく果物や木の実類を主に食べていたらしいのです。化石に残された傷跡から、人類の先祖は他の大型動物の餌食で、食べる側でなく食べられる側だったと推定されています。これまでは、人類の祖先は狩猟技術とライバルを倒す力を駆使して生き残ったと考えられていましたが、むしろエサとして捕食される危険に曝されており、これを回避するために仲間と協力し合う能力によって集団生活を行い、進化していった、というのです。

この記事を読みながら、わたしは不思議な感慨に捕らわれています。太古から400万年も経ち、もはや猿人ではないのに、人類はこの知恵を何時になったら十分に発揮できるのでしょうか。

しかしわたしは佐々木恵さんの「ルワンダからの手紙」(昨年7月20日付け)を読んで、大きな感銘を受けました。

恵さんは佐々木和之先生の働くリーチが主催する「和解セミナー」に参加され、ジェノサイドの体験者たちに出会われました。ある老婦人は、雇っていた使用人に自分の子供たち殺されたのです。ところが彼女はその殺人者を刑務所に見舞い、出所後も援助をしているというのです。

このような体験を持つ多くの女性たちについて、恵さんは、彼女たちが主にある癒しの道を歩みはじめていると記し、「主にある希望」がここに確かにあると感じておられます。

キリストの和解こそが癒しの道の出発点であり、また希望の根拠です。ルワンダでのお働きを通してキリストの和解の業に奉仕しておられる、佐々木和之先生と恵さんの働きに感謝し、祝福をお祈りしたいと思います。

## 佐々木和之

ささきかずゆき

## 和解の兆し、新しい交わり

このプロジェクトがジェノサイドの被害者側と加害者側の関係修復にどのような影響をもたらしていくのか……。祈りつつ、注意深く見守って行きたいと思っています。



### 「償いのプロジェクト」着工翌日の建設現場にて ■ムラーホ！

日本は蒸し暑い毎日が続いていることと思いますが、皆さんお元気でお過ごしでしょうか？こちらは6月中旬から乾季に入り、毎日青空が広がっています。私と家族が生活している首都キガリは、ほぼ赤道直下と言ってもよい南緯1.59度に位置しているため、さすがに日差しは強いですが、湿度が低いことと、標高が比較的高いために（1600m以上）、日陰に入りさえすればいたって快適です。日本のように熱帯夜で寝苦しい思いをすることもありません。

いつものように、家族5人と犬一匹（愛犬クッキー）とても元気にはしていますと言いたいところなのですが、実は私、今病みあがりの状態でこの原稿を書いています。しばらく下痢と腹痛が続き血便が出たために病院で検査したところ、便から二種類のアメーバーが見つかりました。まだ腹痛と下痢が続いていますが、お世話になった医師の話では、5日間治療薬の服用を続ければ回復するとのことでした。

でご安心ください。妻の恵は、しばらく股関節痛に悩まされていますが、7月下旬から9月上旬に帰国する間にきちんと検査をし、治療に努める予定です。3人の子どもたちとクッキーはとても元気にはしています。

### ■「償いのプロジェクト」の家屋建設が始まりました！

ジェノサイドに関与した罪を自白・謝罪した受刑者が、協力して被害者のために家を建て上げる「償いのプロジェクト」が、5月22日、タンザニアとの国境近くにあるキレヘ郡で始まりました。

現在、郡内の四つの建設現場で、計64名の受刑者（男性61名、女性3名）が、日干し煉瓦の家屋建設に汗を流しています（10月以降は80名に増加予定）。各現場では16名の受刑者が二つのグループ（各8名）に別れ、REACHが現地で雇用した大工さんの監督のもと、最初の8名が月曜日から水曜日まで、残りの8名が木曜日から土曜日までそれぞれ三日間作業に従事して



日干しレンガ造り

います。計画では約6週間で家屋一戸(①幅8.5m×奥行6mでリビングルームとベッドルームが三つの住居、②幅4.5m×奥行2.5mの料理小屋、③幅1.5m×奥行1.5mの屋外トイレのセット)の建設を完了することになっていますが、それが終わると次の現場に移動して再び他の受益者のための家屋建設に取り組みます。

今年度、2008年3月末までに建設が計画されている家屋は計25戸です。プロジェクトの受益者は、20世帯がジェノサイドの起きた13年前に家を破壊されてしまったジェノサイド生存者の家族、残りの5世帯は、ジェノサイドの直接の被害者ではないものの、様々な理由で母子家庭になり、親族の家に居候したり雨漏りがひどい掘っ立て小屋に住んでいる家族です。

このプロジェクトは、「修復的正義」(restorative justice - 修復的司法とも訳される)の理念に基づいて進められています。修復的正義は、加害者に懲罰を加えることよりも、被害者が受けた損害の回復を重視し、加害者が出来る限りの「償い」に取り組むことを促すことによって両者の関係修復を試みるプロセスです。ですから、このプロジェクトの最大の目的は、自らの罪を認めた受刑者が、被害者の回復や地域社会の福祉に役に立つ事柄を、罪の「償い」として成し遂げていくのを支援することです。

このプロジェクトで成される「償い」によって、死んでしまった被害者の家族が戻ってくるわけではありませんし、被害者の心身に刻まれた傷が消え去るわけではないことは言うまでもありません。奪ってしまった命は決して償うことができないものです。しかし、ジェノサイドの生存者の多くが、加害者による心からの謝罪と、具体的な償いの行為を強く求め続けています。おそらくそれは、13年前、一匹残らず殺されるべき「ゴキブリ」呼ばわりされるなど、徹底的に非人間化された彼・彼女らが、自らの尊厳を回復していくために不可欠なことだから

なのでしょう。

一方、この「償いのプロジェクト」は、受刑者の人間性の回復にとっても重要な意味を持っています。つい先日、受刑者の一人が私と訪問客数名を前にしてこのような問いを投げかけました。「私たちはまるで獣のように殺戮に参加しました。外国人の多くは、私たちルワンダ人を獣同然と思っているかもしれませんね。皆さんには今の私たちがどのように見えますか？」私は、この受刑者である男性の問いかけに、彼の心の奥底からの叫び、「私は獣同然、否、獣以下のことをしてしまった。しかし、私は人間なんだ！」という叫びを聴いたように思いました。プロジェクトの参加者の多くが、政府の扇動・動員によってしてしまったこととはいえ、かつて殺戮、略奪、家屋の破壊等に関与した人々です。破壊した家を、自らの手で再び建て上げていくこと。それは、彼・彼女らが自らの人間性を回復し、尊厳を取り戻していくプロセスでもあるのです。



家づくり

### ■和解の兆し

家屋建設の着工からまだ一ヵ月半が過ぎたばかりですが、今のところ工事に多少の遅れは見られるものの、受刑者の一人一人が明るい表情で作業に取り組んでいます。つい最近現場を訪ねたとき、それぞれの現場で工事を見守っていた受益

者である女性たち（うち3名がジェノサイド生存者）に受刑者の働きぶりについて尋ねたところ、4名ともとても満足していると語っていました。



受益者のマクラタさん

このプロジェクトを始めて強く感じるのは、受益者である女性たちの表情がとても明るくなったことです。あと数週間後には念願の「我が家」が完成するのですから、当然といえば当然かもしれません。しかし、彼女たちがこれまで歩んできた苦難の道のりを考えると、白い歯がひときわ目を引く彼女たちの笑顔が決して自明のことではないと思わされます。

「今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる」（ルカによる福音書6章21節）とのイエス・キリストの言葉が、今ここで実現しているのだと感じるのです。

ジェノサイドで殺された11人の近親者の亡骸をこの4月に埋葬したばかりのユディットさんも（『ウブムエ』No7参照）、私が現場を訪問すると満面の笑顔で迎えてくれる女性の一人です。彼女はジェノサイドで夫と一人息子を殺され、家を破壊されて以来、友人のロジーナさんと一緒に間借り生活を続けてきました。プロジェクトが始まって間もなく、「この家が完成したら、まわりに花を一杯植えるつもりなの」と語った彼女の嬉しそうな顔を忘れることができません。

#### ■受刑者の昼食の世話をする受益者

プロジェクトの参加者は、家屋建設の受益者にとって、醒めた目で見れば自分の犯した罪のために刑罰を受けている受刑者でしかありません。彼・彼女らによって受けた損害の大きさを考えると、自分のために家を建ててくれているといっても、感謝する筋合いは全くないと思う受益者がいたとしても驚くことではありません。

しかし、受刑者の真面目な働きぶりを目にし、それを評価する声が受益者や周辺住民の間で聞かれるようになってきました。そんな中で、受益者の女性たちから受刑者への昼食や飲み物の提供が始まったのです。例えば、既に紹介したユディットさんは、昼食抜きで仕事を続けている受刑者を可哀想に思い、彼らにサツマイモ、アズキ豆、キャッサバなどの食材を自宅から持ってくるように呼びかけ、それらを調理して簡単な昼食を提供し始めました。ルワンダではお弁当を持ってくる習慣は無く、プロジェクトとしての昼食の支給も無かったために、受刑者はそれまで昼食抜きで仕事をしていたのです。ですから、ユディットさんの温かい心遣いが受刑者たちに感謝されていることは言うまでもありません。受刑者の一人エリアブさんは、このユディットさんの好意に応えるためにも、「ぜひとも立派な家を造るんだ」と語っていました。



ユディットさんとエリアブさん

**■受刑者の声を代弁するジェノサイド生存者**

先日、キレへ郡で活動する女性協働グループに参加する女性たちを訪問した時のことです。ジェノサイドの生存者である世話役のアグネスさんが、私とREACHの同僚に向かってこう尋ねました。

「プロジェクトの参加者の中には、現場まで片道一時間以上かけて通ってくる人たちがいる。それなのにみっちり8時間働かなくてはならないのはあんまりです。なんとか通勤時間を考慮して労働時間を減らしてあげることはいできないのですか？」

話を聞いてみると、彼女の村で家屋建設に取り組む数名の受刑者から相談を受けたとのことでした。アグネスさん自身、ジェノサイドで夫を殺され、自らもレイプされた経験を持つ女性です（『ウブムエ』No.6、4頁を参照）。その彼女が、ジェノサイドの被害者の声を代弁するとは驚くべきことです。そして彼女は、「女性協働グループの仲間たちとぜひ建設現場を訪ね、一緒にお祈りをして受刑者を励ましたい」と言ったのでした。

まだ始まったばかりですので、このプロジェクトがジェノサイドの被害者側と加害者側の関係修復にどのような影響をもたらしていくのか、まだはっきりとしたことは分かりません。場合によっては、両者間の緊張が高まる事態が生じないとも限りません。これからも祈りつつ注意深く見守っていきたいと思います。

**■終わりに**

ルワンダで生活を始めてから、沢山の御手紙を皆さんから頂いてきました。いつも励ましと祈りの言葉をありがとうございます。日本からルワンダにはだいたい二週間以内で航空便が届くのですが、こちらから日本には場合によっては半年近く掛かってしまうことがあります。こちらで1月に投函した新年のご挨拶が、6月を過ぎてから届いたとのご連絡を何名

もの方々から頂きました。「返事が来ないなあ」と思われている方がおられるかもしれませんが、このような郵便事情をご理解下さるようお願いいたします。皆さまのご支援により、このルワンダでREACHの一員として働くことができるだけでなく、「償いのプロジェクト」に着手することができましたことを感謝いたします。これからも様々な課題に直面していくことになることと思いますが、どうぞこれからもお祈りとご支援をよろしくお願い申し上げます。（7月15日記）



## 美しい丘、元気な人々

### 佐々木 恵

ささき めぐみ

パッチワークのようにきれいに耕された丘と  
丘の間に、人々の声が飛び交っています。

ルワンダに住んで一年半が過ぎました。その間に、気付いたルワンダならではのいろいろなことを今回はお伝えしたいと思います。

#### ■ルワンダの北斗七星

ルワンダの夜は、星空が見事です。市内は、それでも蛍光灯の明かりでぼやけるのですが、停電の日は、天の川まではっきり見えます。さて、ルワンダは、赤道よりやや南に位置しているのですが、この前、北斗七星を見ていて、その向きがさかさまなのに気付きました。今まで暮らしたどの国でも、北斗七星のひしゃくは、水がこぼれない上向きでした。でも、ここルワンダの北斗七星は、下向き、水が汲めないのです。このことを通して、ルワンダが赤道以南にあることに改めて気付かされました。「水道の水が配水管から流れ出る時にできる渦巻きも、反対向きだ・・・」と夫・和之はいます。洗面台のシンクにためた水にインクを落として試してみたのですが、どうもうまく確かめられませんでした。日本ではどのようにできるでしょう？これ、関係ありますか？他にもきっと気付いていない北半球との違いがあるのかもしれない。

#### ■千の丘の国ルワンダ

これは、ルワンダの観光用のキャッチフレーズです。このキャッチフレーズの通り、ルワンダは美しい丘がいくつも重なるようにして存在しています。我が家のテラスから見ただけでも、左・正面・右に丘が連なり、その眺めのすばらしさ

は私達の自慢です。人口密度の多いキガリ市内は、丘の上から谷底まで家が密集しているのですが、丘の尾根づたいに伸びる主幹道路を外れると、道はでこぼこの未舗装になります。その道路がそれぞれの丘を等高線のように走り、あるところで上の道路とつながりながら、家々を結んでいるのです。ですから、主幹道路を走る乗り合いバスに乗るには、このだらだら坂をとぼとぼ上っていかねばなりません。ちなみに我が家は、主幹道路からわずかに50メートルほどのところなので、そう苦労しないですむのですが、それでも、家の門をでるのに急斜面をあがり、家の門を出てからも坂道・・・。上の道路に出るまでに息が切れてしまいます。

ところで、この前、面白い光景を目にしました。我が家のテラスから外を見ていたところ、すぐ左手の丘にいる人と右手の丘にいる人が、お互いに甲高い声で呼び合って、何か話をしているのです。直線距離で2キロほどは離れているように思うのですが、その声が丘に反射して、とてもよく聞こえます。一般的に言って、目のいいルワンダ人ですから、相手が誰であるのかも分かるのでしょうか。

そのことを、ルワンダ語の先生のダミエンさんに話したところ、田舎のほうではあちらの丘とこちらの丘で普通に挨拶を交わすというのです。こちらの丘で畑仕事をしている人が、あちらの丘で畑仕事をしている人に、「お〜いダミエン、おはよ〜う！ご機嫌いかがあ〜？」「おはよう！フォースティン！元気で〜

す！」というように・・・。

時には、それが3～4人の情報交換になることもあるとか・・・。きっと、これは、田舎のほうでは良く見かける光景なのでしょう。パッチワークのようにきれいに上から下まできれいに耕された丘と丘で、人々の声が飛び交っているのだと思います。



キガリ市内の我が家でも、谷底にある小学校から、子ども達の歓声がよく聞こえてきます。また夕方になると、その日の最後の遊びに興じているのでしょうか、楽しげな手拍子を伴った子ども達の笑い声（両手でリズムカルな手拍子を取りながらダンスのように右足と左足を交互に出して遊ぶ、女の子の大好きな遊び）が丘の下方から聞こえてきます。谷底の声は、丘の上まで良く届くようです。

話は変わりますが、ルワンダ人の歩き方は、本当にゆっくりです。どうしてこんなにゆっくり歩けるのだろうか・・・と不思議に思えるほど、ゆっくりゆっくり歩く人が多いのです。きっと、この歩きかたが丘の斜面を登るのに適した速度なのだろう・・・と、勝手に推測しています。

#### ■一時帰国

私と子供たち3人は、7月27日にルワンダを発ち、1ヶ月半の間、一時帰国しま

す。私の健康診断が主な目的なので8月いっぱいには鹿児島で過ごしながらか、診察・治療を受ける予定です。また、8月6～7日には、鹿児島の伊集院教会で開かれる九州バプテスト大会で証しをさせていただく予定です。その他にも、近隣の教会で証しやルワンダの報告をさせていただく予定です。ルワンダでいただいた恵みを皆様にご報告したいと思っています。

日本は1年7ヶ月ぶり！楽しみです！久しぶりに会う家族や親戚、教会の方々や友人との交わり。お刺身・回転寿司・納豆・豆腐。そして体を湯船の外で洗える日本式お風呂と畳。夏祭りに海水浴。子ども達は、今から指折り数えて2週間後の帰国を楽しみにしています。でも、その間和之は愛犬クッキーと留守番です。どうぞ、私たちの帰国の間、全てが守られて、それぞれに充実した時間が過ぎますようにお祈り下さい。（7月15日記）



#### 帰国した友人と

#### <佐々木ファミリー祈りのリクエスト>

- ・「償いのプロジェクト」はじめ、REACHの活動の一つ一つが人々の癒しと和解のために役立つものになるように
- ・家族が日本に無事到着し、滞在期間が充実したものになるように
- ・恵の診察・治療が十分にできるように
- ・ルワンダに残る和之の健康と安全のために

郵便振替口座 00250-0-112907 佐々木さんを支援する会

## 佐々木さんを支援する会・2006年度会計報告

## ●一般会計の部

収入の部		支出の部	
前年度繰越	0	活動費	5,237,661
支援金 ※1	10,410,940	内訳	
謝礼 ※2	239,000	生活費 ※3	4,657,200
雑収入	298	国内活動費	301,859
		活動推進費	278,602
		広報費	135,570
		事務費	56,320
		積立金 ※4	5,220,687
		次年度繰越金	0
合計	10,650,238	合計	10,650,238

## ●特別会計の部（積立金）※4

収入の部		支出の部	
前年度繰越	9,073,170	プロジェクト費	1,625,000
2006年度積立金	5,220,687	次年度繰越	12,668,857
合計	14,293,857		14,293,857

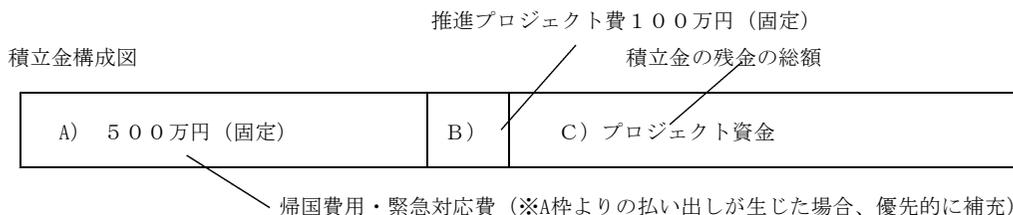
## ●備考

※1 「支援金」は、定期支援、自由支援、献金の合計です。

※2 佐々木さんが、2006年11月～12月にかけて帰国した際、国内での講演の謝礼です。

※3 生活費の中には、研修・図書費、研究資材費、教育費、福利厚生費などが含まれています。

※4 積立金の構成については下記の図を参照にしてください。



## ●会計監査報告

佐々木さんを支援する会の2006年度の収支報告、会計帳簿、現金、預金につき監査した結果、適切に処理している事を認めます。

2007年6月29日

会計監査 梶井義郎（日本バプテスト連盟平塚教会牧師）

**新たに支援をくださった方々です。感謝致します。**

（'06年12月15日～'07年7月15日）

K・J シャクナー、安藤榮雄、飯田喜美代、井出淑弥、伊藤典子、伊原雅子、井本義孝、岩田浩司、宇都宮毅、江波キリスト教会、大分教会・別府伝道所、大野和子、大秦野バプテスト教会、学校法人西南学院、関西学院同窓会東京支部・聖書を学ぶ会、関東学院六浦小学校、関東学院六浦中学校・高等学校、北詰秋乃、釧路バプテスト教会有志、恵泉バプテスト教会、神戸バプテスト教会・坂本献、小倉バプテスト教会、札幌バプテスト教会、札幌バプテスト教会青年会、塩野まり、篠松次郎、彰栄保育福祉専門学校宗教部、高市和久・臼井一美、田坂能彦・紗久子、玉木三佐子、千葉バプテスト教会、鳥飼バプテスト教会、中井亮、西間千恵子、日本バプテスト川越キリスト教会女性会、日本バプテスト北九州地方連合教会音楽委員会(委員長・谷本仰)、野田昭子、橋本寿々江、原田忠・信子、平尾バプテスト教会、広島友の会、広島友の会幼児生活団、広島友の会(創作工芸グループ)杉原幸代、福岡国際キリスト教会女性会、福田ノブ子、豊前キリスト伝道所、本間恭子、松浦茂長、松本蟻ヶ崎キリスト教会、宮崎美菜子、目貫美江、森清太郎、矢野登・路得子、山下静江、李貞和、立教女学院高等学校(宗教主任・松本)

以上(敬称略・あいうえお順)

事務作業を簡素化するため、すべての支援者に一律に「振替用紙」を同封させていただいています。請求ではありませんのでご了承ください。必要な方はご利用ください。

